

夢と生きる力を育む教育環境の整備について

【提案先】 文部科学省

1. 提案内容

(1) 学ぶ力の向上のための教育環境づくり

- 多様な子どもの課題や高度な保護者ニーズに加え、新たな教育内容への対応など、教員一人ひとりの負担は大きく、教育が適切に機能するための抜本的改革
 - ・ 小学校の専科教員を義務標準法における定数化
 - ・ 中学校の定数基準を高等学校程度に改善

(2) 個に応じた多様な教育課題に対応できる教育環境づくり

- 子どもの多様な教育課題に専任するための教員配置により、児童生徒への指導の充実
 - ・ 発達障害のある児童生徒への対応のための専任教員の配置
 - ・ いじめ、不登校の解消を目指し、体制を整備する専任教員の拡充
 - ・ 日本語指導が必要な外国籍児童生徒への専任教員の拡充

(3) ゆとりと使命感を持って教員の指導力を最大限発揮させる教育環境づくり

- 教員が教科指導や生徒指導に専念できるために、チーム学校による学校組織の早急な構築
 - ・ 教員の資質能力向上のため、指導教諭の配置に伴う新たな加配の創設
 - ・ 教育相談、カウンセリング機能充実のための養護教諭の複数配置基準の改善
 - ・ 教員の学級事務支援のための事務職員の加配拡充
 - ・ 学校図書館教育充実のための図書館司書の拡充

2. 提案の理由

- 子どもが安定した学校生活を送るためには、教員がゆとりを持ってきめ細かく子どもに関わることができる教育環境が不可欠である。小学校においては、専科教員による、理数教育、体育教育、図工・音楽教育だけでなく、新たに英語教育の充実が求められている。また、自らの将来を現実的に考えさせる中学校においては、教員の教育への高い志だけでは対応が困難な課題が多く、きめ細かな指導が必要となっており、教員一人ひとりの負担が増大してきている。
- いじめの問題や不登校児童生徒への対応、発達障害のある子どもへの支援や日本語指導が必要な外国人児童生徒など、多様な教育課題に対応するための、それぞれの課題に専任できる教育環境を整える必要がある。
- 最大の教育資源である教員が、自らの意識改革により資質能力の向上を図り、持てる力を最大限に発揮できる学校組織の構築が必要である。また、女性教員の定年前退職者も多く、学校が安定した指導力を持続するため、指導教諭の配置による女性の活躍機会を創出することが重要である。

(本県の取組状況と課題)

本県は、いじめ不登校、学力、体力の向上、特別支援教育など大きな課題であり、それらを総合的に解決するために、少人数学級編制を小中学校全学年に拡充し、教育の充実を図ってきているが、まだまだ教員一人ひとりの負担は大きい。他府県から、多くの子育て世代が転入してきている中、県民に信頼される教育を進めるため、最大の教育資源である教員が、最大限に教育力を発揮できる教員配置を進めることが喫緊の課題である。

